

令和8年度 第1回市川市食育推進関係機関連絡会（詳細）

1 開催日時：令和8年7月16日（木）午後3時～4時30分

2 場 所：市川市保健センター4階大会議室

3 出席者：代表13名

大野氏（一般社団法人市川市医師会）

鈴木氏（一般社団法人市川市歯科医師会）

池口氏（市川市PTA連絡協議会）

山崎氏（市川市私立幼稚園協会）

三吉氏（市川市食生活サポート協議会）

澤田氏（市川市漁業協同組合）

菅谷氏（千葉伝統郷土料理研究会）

小野氏（市川市農業協同組合）

中野氏（市川商工会議所）

塩田氏（市川市消費者モニター友の会）

菊地氏（市川市社会福祉協議会）

田邊氏（千葉縣市川健康福祉センター）

山本氏（生産者代表）

（事務局）保健部：横山部長、小森次長

保健センター健康支援課：高城課長、樋口主幹、平林副主幹、

池田副主幹、大杉主任技師、中村技師

（関係課）農政課：堀江主幹、井出主任

臨海整備課：高木主幹、飯田主事

保健体育課：佐竹主幹、沖田副主幹

こども家庭相談課：麻生主幹、村上副主幹

幼保施設管理課：松永主幹、野崎副主幹

総合環境課：服部主査

4 内 容 （1）第4次市川市食育推進計画中間評価について

（2）令和8年度市川市の食育推進について

（3）代表者及び関係機関等の取組紹介、

第4次市川市食育推進計画の数値目標のうち、中間評価で

「現状値が改善しなかった指標」、「現状値が変化していない指標」

について団体で取り組んでいること、今後取り組みたいと考えていること

5 閉会

健康支援課長：皆様こんにちは。本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより令和8年度第1回市川市食育推進関係機関連絡会を開催いたします。

健康支援課主幹：本日の会議につきましては、市川市審議会等の会議公開に関する指針により、公開が原則となっており、傍聴の希望があった場合指針に沿って公開の可否を決定いたします。また会議録は市川市公式 Web サイトホームページにて公開いたします。会議録は一言一句正確なものではなく、意見を集約したもので、お名前も入れさせていただきます。なお、公開にあたりましては、各代表者のご発言部分は事前に確認をさせていただいた上で公開させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。本日傍聴者はいらっしゃいませんので議事に入りたいと思います。

(1) 第4次市川市食育推進計画中間評価について

事務局：第4次市川市食育推進計画中間評価についてご説明いたします。昨年度、連絡会でもお伝えしましたが、今年度から連絡会に参加いただいている方もいらっしゃいますので、他の方ももう一度確認いただければと思います。

資料は内容1-①をご覧ください。令和7年度は第4次市川市食育推進計画の中間年度であり、いちモニによる食育に関するアンケート調査を実施し、指標項目について計画策定時、現状値、目標値を比較し、達成状況を4段階で評価いたしました。結果としては、現状値が目標値を達成している指標は9項目、朝食または夕食を家族と一緒に食べる共食の回数 中学2年生、生活習慣病予防や健康づくりのために食生活や運動に気をつけ、適正体重の維持を意識している 20歳から30歳代女性、30歳から50歳代の男性、塩分のとりすぎに気をつけている 30歳から50歳代の男性、栄養教諭等による地場産物に係る食に関する指導の平均取り組み回数、市川市で水産物がとれることを知っている、食品の安全性について基礎的な知識を持ち自ら判断する、日本の食文化や郷土料理、家庭で受け継がれてきた料理や作法を知っており、伝えている、食品ロス削減のために必要な分だけ購入、調理している市民の割合です。現状値が目標に向かって改善している指標は7項目、食育に関心がある、朝食を欠食する 小学生、中学生、20歳から30歳代、主食、主菜、副菜をそろえた食事を1日2回以上ほとんど毎日食べている 全体、20歳から30歳代、ゆっくりよく噛んで食べる割合です。現状値が変化していない指標は3項目、主食、主菜、副菜をそろえた食事を1日2回以上、ほとんど毎日食べている 30歳から50歳代男性、1日2食以上野菜料理を食べる、学校給食における地場産物を使用する割合（金額ベース）です。現状値が改善しなかったのは2項目、朝食または夕食を家族と一緒に食べる共食の回数 小学5年生、直近1年以内に農業体験に参加したことがある割合です。アンケート結果から、20歳から30歳代では、朝食欠食、バランスの良い食事の摂取が低い傾向

にありました。若い世代は進学や就職等で生活リズム等が変わり、食生活が乱れやすい時期でもあります。市内大学と連携を図りながら、望ましい食生活へつながる啓発をしていけたらと考えています。働く世代は、朝食欠食やバランスのよい食事、塩分のとり過ぎに気をつけていると回答した人の割合が低く、30歳代の女性では仕事や子育てで忙しい時期でもあり、知識があっても実践が難しい状況にあります。そのため、子供と一緒に楽しめる体験型のイベントや農業体験の企画、すきま時間で見られる SNS や時短レシピ等を提案して無理なく簡単にできる食生活の情報発信に努めてまいります。また、食を取り巻く社会環境が大きく変化する中、食に関する価値観やライフスタイルの多様化が進んでおります。それに伴い、小中学生の共食の回数が減少し、孤食が増え、郷土料理や食事のマナーなどを伝える機会も減っています。今後は学校だけではなく、地域での共食の場を提供して参ります。地産地消の取り組みや農業、漁業体験は地域の食文化や農水産業に関する理解を深め、食べ物を大切にする気持ちを育むものになりますことから、関係機関と連携して、体験や生産者との交流の機会等を提供してまいります。食品ロス削減は、ごみの排出量を減らすことにも繋がります。引き続きフードドライブや出前事業、イベント等により周知啓発を行います。今後は、6月に農林水産省より発表されました国の第5次食育推進計画も踏まえて、事業実施や市川市の第5次食育推進計画策定をしていきたいと考えております。なお本日の資料の参考資料2、第5次食育推進基本計画における目標、指標、目標値もございますので、後ほどご参照いただければと思います。

健康支援課主幹：ただいまの第4次食育推進計画の説明についてご質問のある方はございますでしょうか。ないようですので、内容2 市川市の食育の推進について、令和7年度と令和8年度前半の報告と今後の計画を関係課より説明させていただきます。

(2) 令和8年度市川の食育推進について

健康支援課：インデックス内容2 市川市の食育の推進についてをご覧ください。

令和7年度の報告については、昨年度の連絡会で報告しておりますので、ご覧いただければと思います。令和8年度において会議は食育関係課会議の開催を3回、食育推進関係機関連絡会は、今回の1回となります。来年度は、第5次計画策定年となりますため2回を予定しております。取り組みとしましては、まず食育関係の中で、6月食育月間に子どもへの食育の取り組みの展示を行いました。また、広報いちかわでは食育の特集を取り上げていただき、中間評価の結果で小学5年生の共食の回数が目標値に達しておりませんでしたので、「美味しく、楽しく、一緒に食事をしよう」というテーマで、共食について掲載いたしました。皆様には白黒ですが、お配りしております。トップの一面と1枚開けて2面3面の方にカラーで掲載しております。お時間のある時にお目通しいただければと思います。

す。あと食育の日シールも皆様にお配りさせていただいております、毎月 19 日は食育の 19 をいく、と読みシールを毎月 19 日に貼ってねということで PR をさせていただいております。市川の食育探検、こちらも初めての方もいらっしゃるので、一部ずつお配りさせていただいておりますが、すごろくのように順番にたどってクイズを通っていくと、市川の食育の HP にたどり着くというもので、裏面に市川の産物、環境など解説も載っております。在庫がありますので、もし団体等でお配りすることができそうでしたらお声掛けていただければと思います。市川市の公式 Web ホームページに適塩ヘルシーレシピというのを載せておまして、こちらは毎月 19 日食育の日に随時更新しております。昨年度の連絡会で SNS での発信が有効とご意見をいただいたのですが、ショート動画は市の規制があるため、適塩レシピは LINE、X 等の SNS で紹介して、市の公式ホームページの方に飛ぶようにしております。その他、新しく年に数回食育の情報を流す計画をしております、5 月には朝食について周知しました。

食育講演会は 5 月 23 日（土）に、「今日から使える食べない子が変わる魔法の言葉」をテーマに、山口健太先生より食事が進まないお子さんへの声かけや楽しく食べる土台には食べないことを責めない安心した環境が大切であることなどをお話いただきました。子育て世代、働く世代の方に多く参加していただけるよう土曜日に開催、お子さんも一緒に参加できるようにしました。周知にあたり、私立幼稚園協会の山崎様にもご協力いただきましてありがとうございます。また、幼保施設管理課で作成している保育園のレシピがあるのですが、広報の食育特集にも載せているんですけども、こちらも紹介させていただきました。後ほど、幼保の担当から詳しく説明があるかと思います。

次に食育関係課の事業につきまして健康支援課の計画になります。食生活サポーターさんと一緒に実施していますおとなの食育講習会は、こちらの中間評価の結果を受けまして、今年度は野菜をテーマに、またおやこの食育講習会は共食をテーマに計画しています。おやこの食育講習会は夏休み中に小学校拠点に活動している女子ミニバスケットチーム 2 チームと、今年は初めて野球チームの男の子包丁を持ったことがないっていう子もいるようですがその子たちと一緒に調理実習を行います。また新規の事業としては、夏休み中に小学生の親子を募って、八幡市民交流会ニコットで千葉県の郷土料理であるまつり寿司を親子で作って、郷土料理の継承と親子で一緒に楽しめる学ぶ機会として計画しております。その他、生活習慣改善講座では骨粗鬆症について、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業については、高血圧をテーマに実施する予定です。

このように、4 次計画終了まで中間評価の結果も踏まえて、既存の事業や新規事業について実施していく予定であります。以上です。

こども家庭相談課：こども家庭相談課では、妊娠期から 18 歳のお子さんと保護者の方に対して専門性を生かした切れ目のない支援を推進しております。食育に関するこ

といたしましたし、定例事業となりますが、母子に関する教室や健診相談事業を実施しております。パパママ栄養クラスでは食事バランスガイドを用いまして、ご自身の食生活を振り返る機会を作っております。共働きで食事の準備に時間を割けないという方も増えているため、中食でのバランスのとり方などもお伝えしております。離乳食教室では保護者の方に野菜摂取を促すリーフレットを配布し、お子さんの食事だけではなく、保護者の食事を意識していただくよう努めております。今後も妊娠をきっかけに、またお子さんの離乳食を通して家族全体で食育を推進していけるよう啓発して参ります。

農政課：農政課からは令和8年度5点ほど掲載を挙げさせていただいております。1点目は気軽に市民の皆様等が農業体験ができる市民農園の開設をほぼ通年で実施しているところです。2点目は気軽にご家庭で取り組める、おうちでちょこっと菜園で、実際にトマトの栽培をお願いしているところです。こちらについてもほぼほぼちょうど今この時期真っ盛りですが実施をしております。3点目は市の施設を活用させていただいて、6月に実施をしました地元の野菜を中心にやっているいちベジフェア、そして間もなく8月の、市川の梨ですね、有名な梨のイベントを2回行います。そして冬場になりますと12月には、これも市の施設を活用させていただいて農水産まつりを実施の予定をしております。そして、一番最後に、食と農ということで、市の職員が小学校の方に出向いて市川市の農業というところで、自然ですとか環境、あるいは食物そういうものに対して、理解を深め情操を養い、生きる力を身につけるっていうことを踏まえて、『食育の推進』をと考えまして、出前授業を実施しているところです。3ヵ年計画で、今年13校予定しており、たまたま今日の午前中に、職員2名が市立小学校の方に出向いて事業を行ったところでございます。

臨海整備課：臨海整備課におきましては、本市の水産業振興を目的として、市川市漁業協同組合や鮮魚商組合、消費者の関連団体等で構成する市川市魚食文化フォーラム実行委員会を組織し、様々な取り組みを行っております。

令和8年度の取り組みとして、まず市川漁港で水揚げされるスズキや生ノリの販売を行います。それから、秋頃には市川漁港において「いしかわ三番瀬まつり」を開催いたします。また、1月下旬には市川産のノリを提供して学校給食で使用していただきます。さらに、ノリすき体験を行う小学校に対しては、学校関係者への講習会の開催や道具の貸し出しの支援も行っております。

2月には市内鮮魚店の店主を講師に迎えて魚のさばき方教室を開催いたします。

今年度から、連携協定を結んだイオン株式会社様と連携し、市内の4店舗における市川産の水産物の販売や、「鮮魚士」を講師に迎えた魚のさばき方教室も実施する予定でございます。このような様々な事業を実施し、水産業振興と食育の推進を図ってまいりたいと存じます。

幼保施設管理課：各保育園の食育計画に基づき、野菜の栽培や収穫、クッキング保育、箸の持ち方教室、だしの味体験教室などの取り組みを行っています。食育計画は評価を数値で残せるように作成していましたが、使用方法の検討が必要となり活用しきれていない反省があります。無理なく進められるよう取り組んでいく予定です。献立につきましては、物価高騰により調整していく困難さがありますが、季節感がある献立を心がけています。行事食もその都度取り入れ、園児が食に興味を持ってもらえるように工夫をしています。保護者には保育参観のときに給食を少しですが試食してもらい、園の味を確認してもらうようにしています。今年は試食アンケートに共通の項目、食事について困っていることなどを入れています。令和3年から6年まで3年間継続して実施してきた給食レシピの動画撮影の配信につきましては、定期的な配信をしているものの新規の作成は行っていません。昨年に引き続き、動画撮影してきたものをレシピ集にまとめる作業を行っています。配布されている「かむかむレシピの紹介」の内容につきまして、令和2年に公立保育園保護者のアンケートをとりましたところ、食事の悩みの原因が咀嚼にあるということが推察され、その内容に沿って令和3年度に食育だよりを作成いたしました。より具体的にわかりやすくということで、動画を撮影し、QRコードで配信を行っております。今年も子どもの食の悩みをアンケートでとっていますので、保護者へのフィードバックを予定しております。

保健体育課：市内の各学校においては、子供たちが健康についてみずから考え行動し、望ましいライフスタイルの確立を図るため、体力づくり、望ましい生活リズムの確立、食に関する指導の充実、環境衛生の充実、この4つを柱として、家庭、地域と連携を図りながら、包括的に健康教育に取り組むことを目的としましたヘルシースクールプランに基づきまして、食に関する指導の全体計画を立て、児童生徒の実態に合わせて引き続き教科横断的に食育を進めています。具体的には各学校の栄養教諭、学校栄養職員を中心としまして、地産地消や地場産物の活用を推進したり、図書館との連携したお話給食などを通して子供たちの食に対する関心を高めたりすることを進めております。さらに昨年より月に1回以上和食の日というものを設けまして、だしを感じられる献立や郷土料理等を通して味覚を育てる食育を進めております。学校の栄養士を対象とした研修においても、和食に関するものを行って。お。り。ま。し。て、今年度も引き続き、和食育を進めて参ります。

総合環境課：総合環境課ではまだ食べられるのに廃棄される食品、いわゆる食品ロス削減の取り組みとして、2つの取り組みを行っております。まず1点目が、各家庭で余っている食料品をご寄附いただくフードドライブという活動を市の各種イベントや市と連携して市内のファミリーマートにて行っておりまして、市民の皆様にご寄附いただいた食料品は社会福祉協議会様にお渡しさせていただいております。2点目としましては、市内の小学校または自治会様の方に出向きまして、出前講座と

して資源物とゴミにテーマの内容の1つとして、食品ロス取り組みの協力をお願いしているところです。

健康支援課主幹：食育関係課からの令和7年度及び令和8年度食育推進の報告及び計画につきまして何かご意見、ご質問はございますでしょうか。
ないようですので、次に参ります。

(3) 代表者及び関係機関等の取組紹介

第4次市川市食育推進計画の数値目標のうち、中間評価で「現状値が改善しなかった指標」、「現状値が変化していない指標」について団体で取り組んでいること、今後取り組みたいと考えていること

健康支援課主幹：次に、代表者及び関係機関等の取り組み紹介に移ります。こちらは事前に通知文で詳細をお送りしておりまして、第4次食育推進計画の数値目標のうち、中間評価で現状値が改善しなかった指標、現状値が変化していない指標について、団体で取り組んでいること、今後取り組みたいと考えていることについてご発言いただきたいと思います。現状値が改善しなかった指標は2つ、朝食または夕食を家族と一緒に食べる共食の回数（小学校5年生）と直近1年以内に農業体験に参加したことがある、現状値が変化していない指標は3つ、主食、主菜、副菜を揃えた食事を1日2回以上食べている、1日2食以上の野菜料理を食べる。もう1つが学校給食における地場産物を使用する割合（金額ベース）の3つになっております。各代表の方お1人ずつ3分程度でお願いいたします。初めに大野様からお願いいたします。

大野代表：今回、確かに二重丸がついているところ、内容1-①の6番、生活習慣病予防や健康づくりのための食生活や運動に気を付けて適正体重の維持を意識している市民の割合、これは20代30代の女性と30から50歳の男性は、目標を達しておりますが、逆に言えばそれ以外の年齢のところは達成していないということになります。今若い方ですと、年代によって持っているテーマが違いまして、小学生、中学生ぐらいですと問題になるのは欠食、それから思春期に向けてダイエットに伴う適切な栄養を摂取できないこと、働き盛りの20代から50代にかけて忙しくて食べられない、あるいは帰ってくるのが遅くて食生活が乱れる、逆に今度は60歳以上になってきますと低栄養が問題になってくる場合があります。また、どの世代でも糖尿病や肥満などの疾病に伴って食生活の管理が必要になることもあります。医師会の方では、令和8年4月1日から認定の栄養ケアステーション強化型というものを設置いたしました。これは管理栄養士がおりまして、病院の方でオファアがあればこちらの方で患者さんの食生活に課題をお持ちの方の面接をしたり、あるいは色々な団体で栄養のお話とかそういうことがあれば、栄養士を派遣するというところを行って

おります。電話窓口にご相談いただいておりますと、こういうことができますよとお話もできますので、健康上の課題と食事が関係することがございましたら栄養ケアステーションにご連絡いただければお手伝いできることがあるかと思っております。

鈴木代表：我々は例年、ヘルシースクールの中のすこやか口腔検診ということで小学校5年生を対象に、唾液検査、咀嚼機能検査、そういったものを毎年行っております。昨年より食育に関して、特に正しい食べ方、飲み込み方についてもう少し指導を充実させようということで、内容を変更して参りました。それに伴い、令和8年度からすこやか口腔健診、という名称からお口の健康教室というふうに名称を変更しまして、検査よりも指導の方に重点を置いて開催することとなりました。特に今回のこの中間評価の3番これは小学校5年生対象になっております。共食の回数については、我々の方も朝食の欠食について、朝食の重要性については今まで講義の中でもお話しして参りましたが、共食についてはあまり触れておりませんでしたので、今後そちらの方も内容に盛り込んで指導していきたいと思っております。

池口代表：こちらの会議に参加して2年目となります。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。PTA連絡協議会では、今年度も引き続き早寝早起き朝ごはんプロジェクトを推進しております。学校の取り組みとして、学校だよりや給食だよりなどで食事の大切さを伝えており、給食で子供たちに人気のメニューのレシピや季節の行事にちなんだ料理、また郷土料理などの情報を載せるなど、食育に興味を持ってもらえるような様々な工夫をしています。また、保護者向けの座談会などを通して、子供たちの健やかな生活習慣づくりに取り組んでいます。今年度も家庭、学校、地域が連携しながら、子供たちの成長を支えていきたいと思っています。資料にありました朝食または夕食を家族と一緒に食べる共食の回数を増やすために、学校だよりや給食だよりに掲載されている情報をもっと活用できないかと考えています。掲載されているレシピは家庭でも作りやすいものが多く、短時間で作れるものがほとんどです。給食のメニューということで、家族の会話にも繋がるのではないかと考えています。また、この曜日は一緒に食べる日など決めておく取り組みやすいのではないかと思います。ただ必ず守らなければならない約束というわけではなく、振替可能なゆるい約束事として取り組む方が始めやすいかもしれません。農業体験への参加率が改善されない理由として、個人的な意見となりますが、情報を得る機会が少なかったり、時間や距離、費用など申し込みのハードルが高かったりといったことが考えられます。まずは楽しさを知ってもらうために市内のたくさんの農園さんや関係機関と連携し、参加のハードルが下がるような仕組みをさらに考えていければよいのではないかと思います。また、学校行事やPTA行事と農業体験をセットにすると、さらに参加のハードルが下がるのではないかと考えております。今後も市内の様々な分野の方々と連携し、子供たちが自然と食の大切さを考えられる環境づくりを進めていきたいなと思っております。

山崎代表：まず朝食または夕食を家族と一緒に食べる共食についてですが、働いてる方が幼稚園でも爆発的に増えてきております。市川市という土地柄、子供も今ちょうど5年生の%が出ていましたけれど、受験率が高かったりとか、スポーツのクラブなどに入っていったりと子供たちもだいぶ親と同様に忙しくなってきたので、結構この数字はなかなかすごいんじゃないかなというふうに私は見ていました。しかし、共食はしていても働いている方が多くなってきたりとなかなか食事の準備ができなかったりして共食はしていても食事の質っていうものも落ちているんじゃないかなと思うので、そこら辺の方も調査してみると子供たちのためにより良いものになるのかなと思います。そして、農業体験に参加したことがあるというのも当園の例になりますが、当園では夏野菜ですねミニトマト、ナス、ピーマン、オクラそういったものを子供たちが栽培しておりまして、今年もピザを作って、その野菜を使ったピザを食べました。またインゲンなども朝とってすぐにゆでておかかと醤油で食べたりとなかなかインゲンも食べた経験がある子って少ないですね。もう知っている野菜トマト、ブロッコリー、ピーマン、ナスそれ以外食べたことありませんというような子供たちも多いのが今の家庭の現状なのかなと思います。1度そういったおいしい経験をしたことで保護者と一緒に子供がスーパーに行ったときに野菜を見かけて、これもう1回食べたいって言って、家庭で調理して食べておいしいっていう経験をしていると、保護者はとても喜んでおります。みんなでとりたてを食べる経験が苦手を克服して、喜びを増幅させる1つの方法だと感じております。しかし、当園の近くにですねトマト農家がありまして、そこに毎年年長さんが栽培を見学に行っていたのです。しかしトマト農家さんが年末で離農して、見学ができなくなってしまいました。そうすると、子供たちも身近に感じていたものが遠くなってしまうというので、そういった見学が、市の方などでも教育施設の方にこういった見学ができますよっていうのがありましたら、ぜひ教えていただきたいなと思っております。あとは1日2食以上野菜料理を食べるというもの昔のように言葉が悪いんですけど、ちょっと強要するようなことっていうのはなかなかしにくい世の中になってきていると思います。子供たちは好きなものだけ食べればいい、食べられないものはもう残していいというようなそういったとらえ方をしている子供たちも多くはありません。当園では、お弁当を持参する割合がとても高い幼稚園ですが、そこには好きなものしか入っていなかったり、なかなか苦手なものをお母さんに入れるなどと言って逃げているケースなども多いのが現状です。様々なものをとにかく幼少期にたくさん食べて、そこから好きを広げていくっていうことがとても大事だと思いますので、様々な食に触れる機会を園でも増やしていきたいなと感じております。

三吉代表：先ほど健康支援課さんの方から発表がありましたように、食育講演会を行った際、「今日から使える！食べない子が変わる魔法の言葉」をテーマとし、子供に

対してどういうことができるかを学ぶその講演会には、市民の方が 89 名ほどご参加されました。

その他には、先ほど発表がありましたように、この夏休みもおやこの食育講習会を予定し、今年は、女子が集まる機会の他、初の試みで男子が集まる機会も予定しております。この食育講習会は昨年も行いましたが、参加された子供から、今、山崎様からお話がありましたように、嫌いな野菜だったけれど食べられたという生の声が聞こえました。そして家庭に帰った際に、また一緒に作ってみようなどと、活かしていただければ良いかと思います。その他今年は、郷土料理の継承という目的もあり、太巻きまつり寿司を親子で体験する講習会を行う予定です。これも初めて、公募で親子を募集するという試みです。まだ募集の数としては少ないかもしれませんが、そこでの様子や集まった方々からご意見なども伺い、回数を増やすなど、広げていくための、まずは第一歩として始められればと思います。サポーターも一緒に参加させていただく予定です。

また、サポーターだけで活動していることとしては、イオンさんが行っている移動販売の場所に出向き、シニアの方に気を付けていただきたい食事のポイント・適塩等について書かれたプリントや、レシピをお配りしています。移動販売の利用者は高齢の方が多いので。利用される方に合った内容の食事での注意点などを、月替わりでお配りしています。その際、ご利用される方の様子を見たり、そこでお話をしてみると、今、実際に高齢の方がどういうことを困っていらっしゃるのかが実感出来ます。高齢の方の中には歩くのもやっとという方も集まっていったり、高齢者の声はいちモニアンケートではなかなか拾うのが難しいと思われるので、その声も拾い集めて、私たちが伺ったときにどういうことができるのか考えていければと思います。

その他には、食品ロス削減というお話がありました。食品ロスの取り組みとして、サポーターでもレシピを集めている最中です。また何かの形で発表できればと思っております。また今年も、市民まつりや三番瀬まつり、農水産まつりにも参加させていただき、市民の方への食に関しての周知に努める予定です。

ちょうど本日昼のニュースで、子供を持つ世帯のうち、母親が働いてる世帯が 80%を超えたということがありました、それを聞くと、やはり 1 日 2 回以上、主食・主菜・副菜を揃えるということは現実問題難しいと思われ、自分も毎日出来ているとは言えず、どのようにやっていったらいいのかを今一度考え、ただ、先ほどもゆるく、とお話がありました。完璧ではなくてもその辺も考えながら、また物価高騰も含め、考えていく必要があると思ったところでした。

澤田代表：私たちは生産者ですので、今日は皆さんも知っている三番瀬、市川市漁協と船橋市漁協が漁場として使っている海域について話してみたいと思います。三番瀬は東京湾の北部に位置し、埋め立てを逃れた浅い海域です。10 年ぐらい前まではアサリ、バカガイ、ハマグリ他魚類も非常に豊富な海でした。現状は皆さんこの日

本中の貝類、アサリやなんかについても、テレビ等で知っているかと思いますが、当組合も10年間アサリの生産はありません。ホンビノス貝もここ10年で生産量は9分の1まで減少してきています。温暖化のせいかな、他の原因か、下水処理高度化による海水の栄養不足か、詳しいことはわかっていません。それでも私たち漁業者はホンビノス貝をとり、ノリを養殖し、魚を獲っています。今年で3年目になる漁港朝市も多方面の方の協力を得ながら毎月やっています。環境団体さんによるアマモの移植、市川市が行っている三番瀬公園前干潟造成砂入れ、三番瀬の海洋環境を改善しようと、多方面の方々の取り組みには大変感謝です。三番瀬では獲れる魚も減少しましたが、スズキをメインにクロダイ、ボラなども獲れています。利用頻度の低い魚ですが、それを加工して販売している漁業者もいます。食育の点でも地産地消でこれらの魚を使った食材加工は素晴らしいと思います。他には、青潮などで死んだ貝の貝殻を回収し、運動場など使う消石灰を作る取り組みをする人も出てきました。こんなことですが、今回はあまり、良い話はできませんでしたが、私たち漁業者は頑張っています。

菅谷代表: 千葉県郷土料理である太巻きまつり寿司の調理講習会等を中心に活動を行っています。今年度は小学校6年生の総合学習で太巻き指導を行っています。6月に行徳小学校で行い、10月に大和田小学校で行う予定です。学校の栄養教諭、学校栄養職員と一緒に取り組んでいます。また、コミュニティークラブ主催の太巻きまつり寿司教室を5月に南行徳中ブロックで食生活サポーターの方と一緒に取り組みました。また、1月に八中ブロックでも行う予定です。コロナで控えめになっていった太巻きまつり寿司教室ですが、昨年度、教育委員会から学校給食での和食育を推進して、和食の日が増えたことで、学校でも和食や伝統料理、太巻きまつり寿司の触れ合う機会が増えたような気がします。また、今年度も太巻きまつり寿司のデザインコンテストを行っています。市内の小中学校でたくさんの応募をいただいています。また、私たちの市川支部のメンバーは学校の栄養士がメインとなっています。市川よみうりのおいしく食べようのコラムで、今年度も学校給食のおすすめ、人気メニューについて月1回掲載していますので、機会がありましたらご覧ください。また、一般社団法人和食文化国民会議会員としても活動しています。8月1日服部学園で実施する子どもと大人と一緒に学ぶ体験イベント子供和食セッション夏休みイベントに参加団体として千葉県の太巻きまつり寿司を作る体験に参加しています。食育推進計画中間評価で、13番の日本の食文化や郷土料理、家庭で受け継がれてきた料理や作法知っており、伝えている市民の割合知っている、伝えているところが二重丸にはなっていましたが、小中学校の頃から郷土料理を知ってもらうためにも給食で普段から出していききたいなと思っています。また、今回は食生活サポーターの方と活動ができたので、またいろいろな場面で郷土料理や太巻きまつり寿司を伝えていきたいなと思っています。

小野代表：JA いちかわでは、かねてより食農教育、地産地消、そして地場野菜のPR活動に注力してまいりました。販売面では、イオンやダイエーなどの量販店への供給を積極的に進めており、直近ではサミット様からも地元産梨の出荷についてご提案をいただき、現在検討を進めているところです。また、広報活動の一環として各種イベントにも積極的に参加しております。具体的には、市川真間駅での「母の日イベント」、国分「鯉のぼりフェスタ」、JA いちかわ本店での「桜まつり」などを通じ、地場野菜の消費拡大を推進してまいりました。さらに、食農教育の一環として市川市内の幼稚園と芋掘り体験を実施するなど、次世代への普及活動にも取り組んでいます。一方で、今回の10番に関して、市民の農業体験参加率が低いという課題を認識しております。現状、農協が関与する農業体験の多くは、生産者の皆様のボランティアに支えられている側面が強く、これ以上の規模拡大には限界があると感じております。今後の展望として、私が考える理想は、体験型農業の「事業化」です。現在、一部の生産者様においては、体験型農業によって新たな収益を創出されています。こうして収益性が確保されるモデルを拡充できれば、市民の体験機会を増やしつつ、農家様の所得向上にも繋がる「持続可能な農業体験」が実現できると考えております。今後、担当地域での事例も調査しつつ、この仕組みを推進してまいりたいと考えております。

中野代表：我々商工会議所の立場で食育に関してお手伝いできることといたしますと、今日おみえですけれども、農協様、漁協様等各市内の団体と連携いたしまして市川地域ブランド協議会を組織しております。きっかけはこの時期ですので、これは今募集中なのですけれども市川の梨を中心に、梨を使ったお食事ですとかスイーツとかそういったことのご案内をしております。あと先ほどいただいた食育探検、こちらの方にも載せていただいていますけれども市川の梨ですねそちらとこの市川産トマト絶品メニューを春先にやっております市内の事業者様と連携して、食育のお手伝いができればなというふうに思っています。また昔はお魚もやらせていただいたことがございましたよね。今はこちらの梨とトマトが中心ということで、活動させていただきます。

塩田代表：本日から参加させていただきます。私は会に所属して約30年になります。これまでの活動は、①マイバック運動②資源ごみの分別③リサイクル推進運動④地産地消、市川市で農業関係では、トマト、ほうれん草、漁業関係ではホンビノス貝とかお魚などで⑤食べ物、飲料水の表記。以上、これまで活動してきたことを市川市消費者展において市民に展示、発表してきました。前任者が私ども消費者モニター友の会でこの会議で発表するにあたり、3年前に食育で思い浮かべること、2年前には食でお困りのこと、昨年は多様化した暮らしの中の食というこのテーマをもとに市川市消費者モニター友の会の会員、皆で自分たちの身の回りにいらっしゃる方に対面1対1でアンケートをとりました。それで、気が付きましたことは、高齢

者が多く、運動などもやってらっしゃるなかなか活動をしてらっしゃる方が多い。そういう方にアンケートをとったわけですけど、最高齢で 84 歳の方がいらっしゃいました。それで、私たちはまた高齢者が身の回りに多くいらっしゃるということで、引き続き人生 100 年を生きる時代に私たちは直面しておるのだなということに改めて認識しまして、そのためには、食べる力は生きる力ということで、健康で長生きをするために、特に食生活で気をつけていらっしゃることは何ですかということを、また今年来年にあたって、アンケートをとりたいと思っています。アンケートの内容としまして、まず一番にフレイルという言葉を知っていますか。2 番目に買い物をするとき食品の表示を気にしていますか。このことに関してまたいろいろ具体的に考えておりますけど、それは次の機会に発表しようと考えています。

菊地代表：今回が初めての参加となります。よろしくお願いいたします。

社会福祉協議会では、食育推進において、食を通じた地域とのつながりを大切にしております。また、朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」につきましては、特にこども食堂の活動が、その機会の一つになっていると考えております。

こども食堂につきましては、市内でも数多く開設されており、その立ち上げなどを本会のコミュニティソーシャルワーカーが支援しております。食事を提供する場だけではなく、子どもや保護者、また地域住民が顔を合わせ、安心して過ごせる居場所としての役割も担っております。今年の夏休みには、市内のこども食堂で朝食の提供を始める団体もあり、夏休み中の欠食の防止や生活リズムを整えるきっかけづくりとして期待しております。また、先ほど総合環境課様からご紹介いただきましたフードロス削減の取組や、本会独自のフードバンクは、こども食堂への支援の一つとなっております。さらに、市内郵便局にも、市民の皆様が食品を気軽に提供できる場所としてご協力いただいております。それらを必要な方々へつなぐ役割を社会福祉協議会が担っております。こうした資源を関係機関の皆様と連携しながら、地域を支えていければと思っております。

また、農業体験につきましては、最近では子どもだけでなく、高齢者や引きこもりがちな方などにとっても、社会との接点や地域とのつながりをつくる一つの機会になると考えております。そのような意味でも、農業体験は大変重要であると考えております。

引き続き、地域に 4 名配置しておりますコミュニティソーシャルワーカーが、地域の様々な団体をつなぐ役割を担っておりますので、皆様から様々なご助言をいただきながら支援を進めてまいりたいと考えております。どうぞお気軽にお声がけいただければと思っております。

田邊代表：当保健所の食育に関する取り組みについて紹介させていただきます。千葉県では、第 4 次千葉県食育推進計画に沿って、令和 4 年の 4 月から取り組みを行っているところです。この計画期間が今年度までで、今年度中に新たな計画が策定され

る予定です。市川保健所での主な取り組みとしては、この食育計画のうち「ライフステージに応じた食育の推進」と、「ちばの食育を進める環境づくりに関する取組」を行っています。具体的な事業としては、学校や保育所・事業所などの給食施設への指導、情報提供としては給食利用者の方の栄養管理や、利用者の方の特性に応じたバランスのとれた食事の提供を推進しています。

次に、「健康ちば協力店」の取組では、野菜が豊富に食べられるメニューや食塩に配慮したメニューを提供している、店内終日全面禁煙を実施している、この3つの要件から2つを満たしているお店を協力店として登録して、地域の飲食店等を対象に登録や周知啓発を行っています。

また県民の方が適切な食品選択を行うために必要な食品表示については、事業者へ食品表示制度に基づく適切な表示のための助言や不適切な表示があった場合の改善指導、県民の方に対する食品表示の活用について周知を行っております。

市川市食育推進計画の数値目標のうち、変わっていないという結果だった「主食、主菜、副菜をそろえた食事を1日2回以上食べている」と、「1日2食以上野菜料理を食べる」に対して、今年度、事業所給食施設の利用者の方を対象とした取組を重点的に行っているところです。事業所の健康管理担当者、保健師の方や給食の受託会社、和洋女子大学と連携をして、事業所給食施設を活用した野菜摂取量の増加を促すメニューの提供や、バランスのよい食生活を行うための健康教育を行っております。市川保健所管内の給食施設では、県全体の傾向と同じく肥満の割合が増加しております。事業所給食施設を通じて、県民の方へバランスのよい食事について周知することによって、主食、主菜、副菜をそろえた食事を食べることや、野菜摂取量を増やすことを目指しております。

山本代表：品目としてはねぎ、枝豆、ブロッコリー、にんじんなど、年間10品目程度、少量多品目という形で栽培しておりまして、ねぎに関しましては市内北東部の学校給食の方に12月から3月に納品させていただいております。またその他の野菜については、コルトンプラザ内のイオンの地場野菜コーナーや道の駅いちかわに納品させていただいて市民の方が手に取っていただけるような売り場でも販売をさせていただいております。その他、サツマイモも栽培しているのですが、私もそこは私が通っていたアイリス幼稚園の芋ほり体験用に栽培をしております。食育推進計画についてですが、三角とバツの項目の5項目の中に野菜農業に関することが3つも入っていて大変心苦しいところではあるのですが、先ほどお話があったように、おいしい野菜を食べるとまたこの野菜が食べたくなるとか、そういった体験ができることによって野菜を食べる頻度が上がるということがあるのであれば、ぜひ鮮度が圧倒的に違う市川産の野菜を市民の方に手に取ってもらいたいなというところがあるのです。こちらはまだ置かせてもらっているというだけで何もこちらから発信してないところもちょっとその推進力になってないのかなと思うので、ただ、物を売るだけでなく、何かこちらからもアクションを起こさなきゃいけないかなというふうに感じました。バツに関する農

業体験についてなんですけれども農協さんからもお話があったのですけれども、私も1軒の農家として受け入れられるのは、やはり1つの幼稚園というのが結構限界のところがあって、農業後継者が集まる市の市川市農業青少年クラブという団体に私も所属しているのですけれども、そちらでも4校分を受け入れるのが結構いろいろ条件等、日付等も考えて限界かなというところがあるのす。農業体験をする上で、管理とか収穫適日とか、融通が利くものでいくとやはり土の中にある野菜でじゃがいもだったり、さつまいもだったり、ちょっと譲歩すれば人参とか大根もできる人もやはりその収穫適日が調整できる野菜が農業体験に向いているっていうことになってしまって、面積がかなり必要になってくるので、やはりこの一個人とかが受入れるにはなかなか分母が足りないのかなと感じています。先ほど農協さんからお話があったように、個人で受け入れるというよりは、現在全国なのですけれども、耕作放棄地というのが問題になっていまして、市内でもあちらこちらで、この畑どうするのだっていうのは現場レベルで言っているのですけれども、そういったところをうまく転用したり、あとどうしても私たち後継者にあたる現役というか、一番アクティブに動きたい人間はどうしても家の方の仕事を優先したいところもありまして、私たちの親に当たる主力ではないけれども動けるセミリタイア世代ぐらいの方にぜひ積極的にそういった耕作放棄地の解消と市民の方への農業を通して野菜に関心を持ってもらうという違った形で1つの問題を解決できるのじゃないかっていうのが今の皆さんの意見を踏まえて感じました。

健康支援課主幹：代表者の皆様よりたくさんの貴重なご意見をいただきました。その内容につきまして、相互の意見交換ができればと思います。いかがでしょうか。

大野代表：皆様のお話伺ったところで、色んな団体が色んな講習会を開いたり、いろいろこういう食育に関する研究会、あるいは体験型をやっているんですけども、そういった広報をどうしてらっしゃるのか。例えば今回ですと、食生活サポート協議会の方からは、講習会は女子向け、男子向けあるいは親子向けっていうふうにしているのですけれども、なかなかそういう情報、市川の広報だけでは難しいと思いますし、SNSですと限られた方にしか目にしないということもあるかと思いますがどういった方法でやっているのか、あるいはどういったルートでどんなメディアに流しているか教えていただきますでしょうか。

三吉代表：親子の食育講習会の女子向け、男子向けについてですが、女子対象は、もともとサポーターのお子さんが所属していたバスケットボールチームに、今年もピンポイントで声をかけております。参加する子供は、昨年と変わることもあってしょうし、昨年参加したという子もいらっしゃるかもしれません。年齢も1年生から6年生まで幅広く集まっています。男子の方は野球チームということですが、健康支援課さん、野球チームの声かけはどこから行っていたのか、私存じ上げないのですがいかがでしょうか。

健康支援課：野球チームにつきましては、今までやっていた女子チームの団体のリーダー経由できたもので、ルートの的には同じような形になっています。

三吉代表：親子の食育講習会は、幅広く公募をしたということではなく、今は、決まっている団体に声をかけたという状況です。公募ということでは、太巻きまつり寿司の体験は親子対象で、市民に公募となっています。

健康支援課：今のところ募集は広報と LINE、Xなどを予定しております。

大野様：はい、ありがとうございました。

鈴木代表：私も広報についてお伺いしたいんですけどもここに参加すると、皆さん、各組合の方だったり、市の方だったり色々興味深いことをやられているのですが、私も市川市のフェイスブックとか入っているんですけどもなかなか情報が入ってなくてこんな興味深いことやっているんだと。魚のさばき方教室とか私も参加したいなと思うんですけども、先ほどリール動画、ショート動画が市の規制で出せないということですけどもフェイスブックをみると、リール動画が出ているものもあるじゃないですか。あれは出していい、これは出しちゃいけない、この課は出していい、この課は出しちゃいけないというものがあるんでしょうか。

健康支援課：フェイスブックに関してはお答えができませんけども、InstagramやYouTubeに上がっているリール動画やショート動画につきましては、市の広報広聴課の方で作った動画のみ配信可能、YouTubeのショート動画についても市の広報広聴課で作った動画のみ配信可能ということになっていまして、同じような、例えばレシピの動画を何本もあげるということに関してはちょっと難しいということで回答をいただいているので、広報広聴課で決めた決まりに適する動画をショート動画で作成してあげているという形になっております。

鈴木代表：我々、歯科医師会がやっているのは学校にアプローチしてるので、そういう動画で活動を紹介するっていうのは、必要ないんですけども、例えば他の組合の方がこういうことをやるっていうのを市の広報の方をお願いしてそれで市の方から発信していただくというのはできるんでしょうか。漁業組合が行っている朝市はここで知りましたので、それを家族に話すで行ってみたいという話があったので、そういうのはがもっと広まるといいのかなというのと、あとこの中間評価とか見るとやはり20代の方とかにどうにかアプローチができればいいかなと思うのでそのあたりの世代の方は、広報で紙面で出すよりもSNSかなというところがありましたので、それでお尋ねしたところです。

健康支援課：広報広聴課からショート動画にするのは市としてこれは周知を市でしたいという思うものだけを広報でピックアップして選ばれたものに対してしか作れないとのことでした。魚のさばき方教室、三番瀬まつりに関しては、市川の漁業組合さんと臨海整備課さんと一緒に活動していらっしゃるので、市川の公式 LINE を登録していただいて情報がこういうのがきますよって選んでいただくと LINE で流れてきますので、SNS、市川市の公式 LINE を登録していただけると情報を得ることができるかと思います。20 代の方が市に興味を持っているかというところですけども、事業の時など機会があれば、LINE 登録してねと周知しています。

鈴木代表：ありがとうございます。私もたった今 LINE 登録しました。

臨海整備課：当課では、魚のさばき方教室をはじめとする様々な取り組みを実施しておりますが、広報紙のみでの周知では限界がある部分もございます。そのため、地域新聞への折込チラシの投函や、行徳支所の公式 Instagram を活用するなど、多面的な広報に努めております。

もっとも、SNS での周知につきましては、アカウントのフォロー（登録）がなければ閲覧できないという課題もございます。

また、先ほどありました 20 代から 30 代の若い世代へのアプローチとして、当課では今年度より、千葉商科大学との連携を開始いたしました。同大学の学生の皆様にご協力をいただきながら、イベント等へのブース出展や意見交換などを行っております。今後は、この取り組みを通じて、学生の皆様からさらに周囲の方々へと情報が広がっていくことを期待したいと考えています。

健康支援課主幹：若い世代への取り組みというところでは学校や大学あたりで推進を進めていくという話があるかと思います。あとは企業や会社そういったところの取り組みということもございましたのでその辺りでのご意見等ございますか。田邊様ございますか。

田邊代表：話がずれてしまうかなというところがありますが、中間評価の項目の中で「塩分のとり過ぎに気を付けている 30 歳から 50 歳代男性」が現状値で半分くらいということで良くはなってきたとのことですが、これは優秀だなと思ひまして。というのが、取組でもお話しした事業所給食での取組の中で、健康教育を行う前に事前にアンケートをとり、そもそもの食塩相当量の目標値量をご存じですかと聞きました。そうしたら、知っている人が 8% くらい。同じく野菜摂取量の目標量も知っている人が 8% くらいってということで、知らない方がほとんどでした。となると、気を付けてはいてもどの程度気を付けられているのかなというのが気になりました。気を付けている“つもり”止まりではないかなとも考えると、やはり改めて基

本的な情報も一緒に発信していかなければならないということと、気をつけている方が増えているからといって安心はできないのではないかなというのがあります。

そのあたり市川市の状況や、ほかの団体で把握されていることがあればお伺いしたいと思います。

健康支援課：塩分のとり過ぎに気を付けているというのはふんわりと柔らかい質問だなと思ってまして、塩分に気を付けている方は、第3次計画では数値目標の対象を全体とし達成したので、第4次計画では、生活習慣病が気になる30～50歳代男性に絞ったのですが、この年代も目標達成、だからいいとは思っていません。アンケートの回答も、「大変気を付けている」、「まあまあ気を付けている」を合わせた割合でして、大変気をつけている方は2割ほど、まあまあ気をつけてますみたいな方と合わせて7割ぐらいです。そもそもアンケートに回答してくださる方は意識が高い方が多いので、昨年11月の市民まつりに来られた方、こちらも興味がある、関心のある方が来ていただいているのですが、そこに来きている30～50歳代の男性に同様のアンケートを実施しました。気を付けている方は7.3%、どちらかという気を付けているという方と合わせても50%いかないほどでしたので、市川市全体ではもっと低いと考えて事業展開をするとともに、第5次計画では、アンケートの質問も一考しなければいけないと気にしているところです。

田邊代表：ありがとうございます。アンケートをとると、やはり回答くださる方は関心が高い方にどうしてもバイアスがかかってしまうおそれもあります。

一見目標は達成しているようにみえても肥満の方の割合は増え続けていますし、健診等での要指摘・要指導割合や、透析や、糖尿病の方が増えたりというのを考えると、目標も大事ではあるのですが、実際どうなんだということにも目を配っていただけるとよいのかなと思いました。

健康支援課主幹：ありがとうございます。他に何か相互で意見交換、確認ある方いらっしゃいますでしょうか。様々なお立場から、とても貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。本市でも、引き続き皆様と情報共有など連携しまして、目標値の達成や市民の皆様が食育に関心を持ちまして生活に取り入れていただけるよう食育活動を行ってまいります。

以上をもちまして、本日の議題は終了いたしました。最後になりますが、冒頭にお伝えいたしました通り、当連絡会の会議録につきましては、改めてメールにてご案内させていただきます。本日はお忙しいところご出席いただきまして、本当にありがとうございました。これをもちまして第1回今年度の連絡会はこれで終了とさせていただきます。長時間に渡りありがとうございます。お疲れ様でございました。